

2014年度 出向報告書

公益社団法人日本青年会議所
災害・復興支援委員会 副委員長
佐藤 英次

1. 事業内容

- (1) 2014年度京都会議「防災・減災セミナー」
- (2) 防災ネットワーク構築プロジェクト
- (3) 復興創造フォーラム2014 「防災フォーラム」
- (4) JC-AID販売推進
- (5) 2014年度に発生した災害の状況対応について

職務分掌

- ① 多くの人が実働できる防災ネットワークの拡充・強化
- ② 全国ネットワーク・各種青年団体及び各ボランティア団体との連携
- ③ JC-AIDの普及推進

2. 所感

防災ネットワーク構築プロジェクトを実施するにあたり、共助の領域で多くの人が実働していくために、「連携」をテーマに各地青年会議所における防災・減災意識向上と行政、社会福祉協議会、各種団体との連携を推進してまいりました。その際最も重要なのが、地域においてJCや行政、各種団体が共に継続して行動をしていくことです。そのために、防災・減災意識向上プログラムを構築し、設問に対してYes, Noで自分の考えを示し、お互いを知ることができるクロスロードを用いました。本プログラムは設問を変えることで自由にカスタマイズできるため、地域において継続的・定期的に実践することが出来、積み重ねることで信頼関係の向上につながります。また、社会福祉協議会との防災協定の締結も推進してまいりました。災害時には、社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを立ち上げ、支援のニーズや避難者情報などが集約されると共にボランティア活動のプラットフォームとなってまいります。その中でJCは全国ネットワークを活かした組織力、行動力を発揮することが出来、さらに、会員のプロボノを活かした迅速な支援は社会福祉協議会に頼られ求められております。防災協定の締結を通して、平時から防災プログラムなどを活用し信頼関係を構築することが、有事の際に役割を明確にして迅速な行動に移すための有効な手段ですので活かしてください。また、JC-AIDについては購入の流れと共助のツールとして発送するシステムに課題があり、本年度はこれまでの課題を克服することに時間を要しました。現在は注文から商品到着までの流れも2週間以内と改善され共助のツールとして発送したJC-AIDをストックいただける関係団体の交渉も進んでおりますが、発送経費の課題が残り今後も打ち合わせが必要です。同時に、発動について災害初動の段階で迅速に発送するためにブロック会長へ権限を委ねるなど手順を再構築する必要があります。さらに、本年は戦後初、観測史上初となる災害が多発いたしました。災害における各地でのJCによる迅速な対応は他方から評価を頂くと同時に、2014年度取り組んできた「平時から顔の見える信頼関係づくり」が鍵になることが実証されました。2015年度も引続き、自助努力を喚起し、共助の領

域で多くの人が実働できる災害ネットワークの構築に向けて推進いただけることを期待いたします。

2014年度の出向に対し、後押ししていただきました佐田直人理事長をはじめとする長岡JCスタッフの皆様、そして長岡JCメンバーの皆様、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後に一年以上に亘って私を支えてくれた、吉原章一君、渡邊辰太郎君、水澤元博君、松本光央君、上村英輔君、渡邊慎太郎君、本当にありがとうございます。一緒に出向できたことに本当に感謝いたします。